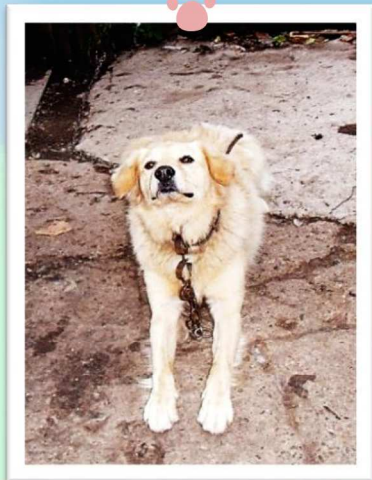


ペットから家族の一員として

20年前 1998年頃



犬 は、家の外で太い鎖でつながれて番犬の役割をさせられているのが一般的でした。主従関係がしっかりと確立されているペットとして扱われていました。



猫 は、ペットとして飼育するわけではなく、自由に家を出入りする野良猫としての生活をしていました。



コンパニオンドッグ

として、家の中で家族とともに生活するようになり、犬の寿命ものびています。そして、何よりも家族の一員として暮らすことで愛情や命の素晴らしさ、楽しい時間などさまざまな恩恵を受けることができます。

現在 2018年



現 在では、動物を家族の一員として扱うようになってきました。その背景には、日本の少子高齢化が加速し、飼い主の高齢化にともない散歩や世話をすることが体力的に難しくなっていることが主な原因にあります。ペットが家の中で過ごせるようになり、飼育環境が大きく改善されました。



アニマルセラピーとは

「ペット療法」といわれるもので、「動物とのふれあい」によって人の心が癒され、ストレスを軽減させる効果があります。精神的に健康にするためのもので、動物とふれあうことで希望を持ち、前向きになり暗い気持ちを解消するのに役立っています。

そのような背景から、残酷なことに捨てられてしまい保健所に入れられてしまう犬や猫が、今に比べて多くなりました。

